

OB会報

湘南サッカー一部OB会報

第 17 号

W杯を観戦して

湘南サッカー部OB会長

22回 桑田 孝

今度のワールド・カップは全般的にはあまりいい大会ではなかったと言われている。もっと素晴らしいサッカーが見られると期待していたがそれ程でもなく、失望させられた部分が少なからずあったからである。日本チームの戦い方にも問題があった。

参加32チーム中「これはいいチームだ」と言われたのはフランスとオランダだけで、ビッグチームと呼ばれていたスペイン、アルゼンチン、イタリヤ、ドイツ等の戦いぶりには正直ガッカリさせられたところが多かった。

アジア代表はどのチームも予選を突破出来なかったし、アフリカ勢も今回は力を発揮出来なかった。

「サッカーで勝つためには、ある種の賭けに出なければならぬ場面が必ずある。リスクを犯さないと勝利を得ることはありえない」と言われている。ましてワールド・カップで優勝するためには、ここ一番という場面では思いきった賭けに出る必要があるが、その点フランスはリスクを恐れず賭けに出ていたしそれに賭ける選手の意気込みもあった。すべての試合を非常にポジティブに戦ったと言える。そういう意味でもフランスは素晴らしいチームだったと言われる価値がある。

一方そういうリスクを出来るだけ犯さないうで戦おうとしたのが今回の日本代表だった。つまり攻めることによる失点の危険性を最小限に抑えた戦い方をしたのであり、結果的にディフェンシブな動きが非常に多かった。残念ながら「これが日本のサッカーだ」と言える動きは何もなかった。最小得点差でなく、もっと差がついても良いから、勝とうとする意欲のあるサッカーをして欲しかったと思っているのは私一人だけではないだろう。残念でならない。

この試合に勝たねば2次予選に進めない2戦目のクロアチア戦でも守りが主で、自分たちの方から積極的に出ていく場面がほとんど見られなかった。1勝が欲しいジャマイカ戦でも、2点入れられてからやっと攻めに出たのだから何をか言わんやであった。攻めない、勝とうとする意欲のないチームを応援するぐらい張り合いのないことはない。折角フランスまで応援に行ったのに疲ればかりが残る結果となり虚しい限りだった。

世界の各国でも、日本のJリーグでも勝てないと監督は直ぐ替えさせられる。

サッカー界ほど監督が替るスポーツはないと思う。特に各国の代表チームの監督は結果を求められており、結果がでないと直ぐにクビとなる。サッカーで勝つのは前述のようにリスクを恐れず攻める時は積極的に攻めないといけないのに、リスクを恐れ積極的に攻めなかった監督も、つまり賭けに出なかった監督も世界では失格と見なされているのである。加茂監督が失敗したのも韓国戦でリードしてから腰が引けたことにある。どうも今回の岡田監督はアジア予選で成功した時のイメージが強すぎたのか、その時のメンバーにこだわり過ぎていたように思えてならない。日本チームにセンターフォワードが不在だったと言われているが、それはストライカーが不在だったことを意味してもいる。ストライカーではない城に頼りすぎていたし、ミスが多かった山口、名波を替える勇気もなかった。その上、攻めなければいけない時に攻めに出て勝負を賭ける度胸も今回はなかったのだから、ワールド・カップ本戦の監督としては残念ながら未だ経験不足で失格だったと言わざるを得ない。

2002年ももう直ぐ来る。次の大会で日本が活躍出来るかどうかは、今回のようにリスクを恐れてディフェンシブになるのではなく、ポジティブに戦い「これが日本のサッカーだ」と胸を張って言えるようなチームを作れるかどうかにかかっていると思う。Jリーグが出来てから日本のサッカーは確実に進歩してい

る。代表チームを成長させるにはJリーグ全体が今後も成長し続けることが絶対大切であるが、横浜Fの合併劇にも見られるように今の経済環境は非常に厳しいものがあり先行き心配でもある。

どうか逆境を克服、Jリーグの選手全員がレベルアップし、代表に選ばれた選手はさらにレベルアップをして2002年には、アグレッシブで積極的なプレーをしたチームであると言われるようになって欲しいと念願している。

(この文は我々年寄りサッカー仲間への会報に投稿したものである。日本代表チームの特性は単に日本代表チームだけのものではなく、日本人の特性そのものかも知れない。現役諸兄にもこのことを良く肝に銘じて欲しいと思ひ掲載して貰った。湘南の特長はアグレッシブなプレーをするチームであると言われて欲しいものである。今年の現役諸兄の健闘を祈っている。)

スーパージェネレーションズ
(60才以上)の活動報告

30回 中原 弘巳

六十才以上の全国規模の大会として、従来からのスーパージェネレーションズ対谷大会に加え、今回は全国OBサッカー大会

レ大会が福島Jヴィレッジで行われました。両大会に湘南OBを中心とするメンバーで参加しました。今年はネーリンピックでもサッカー(神奈川県不参加)が開催され、60才以上の全国規模の大会がますます盛んになって来ています。これらの全国大会への参加チームは県や地域を基盤としたものや大学、旧制高校OBのチームで、旧制中学/新制高校OBを中心としたチームは全国の中でも湘南OBチームのみです。戦績もトップレベルでした。この活動を可能としているのは、先輩の方々の長年の努力と湘南ベガサスからの新メンバーの加入のお陰と

思います。今後も三十代、四十代、五十代、と夫々の世代での活動の積み重ねが重要だと思います。上記の他に旧制中学/新制高校OBの交流大会として、付属・浦和・湘南のFUS交流大会の第3回大会も行われています。付属・浦和も纏まりが良くなって来ています。

1、98全国OBサッカー大会(5月9日~10日)
福島県Jヴィレッジの立派なグラウンド・宿泊設備を使用した大会で、やや遠いことが難であるが良い環境のなかでの2日間のサッカーを楽しむことが出来た。湘南ベガサスを中心とするメンバーで参加した。最初の対東京四十雀は引き分けのもの、後の2試合は得点も多く圧勝であった。

2、第5回スーパージェネレーションズ対谷大会

大会(9月12日~13日)

この大会も湘南ベガサス中心のメンバーで参加した。昨年引き分けの関中連合には0-3で完敗。他の元老九州、滋賀OBには楽勝であった。

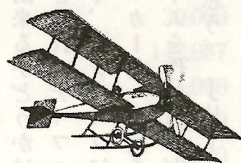
3、第3回FUS交流大会(11月23日)
湘南OBメンバーの大会で、60才以上では18名の多くのメンバーが参加した。60才代若手メンバーは50代チームを応援し、60代の試合には参加しなかったものの、2試合とも勝ち、50代と合わせて昨年に引き続き総合優勝することが出来た。

参加メンバー...早川純(18)、早川次(20)、矢住(22)、桑田(22)、小林(23)、小田島(24)、川島(25)、酒井(26)、鈴木(26)、栗原(27)、山本(27)、近藤(28)、塩川(29)、渡嶋(30)、中原(30)、牛尾(32)、関根(32)、山本(32)。
上記3大会とも来年も実施が予定されており、新規メンバーを含め多くの方々の参加を

98全国OBサッカー大会(5月9日~10日) results table with columns for team and score.

98年 湘南ベガサスシニア 活動報告

本年度の監督を務めています。各大会の試合結果と所感を報告します。



監督 植田 興義

Match results table for 98年 湘南ベガサスシニア with columns for date, opponent, and score.

湘南・・・茅ヶ崎W

・対神奈川戦が最も印象に残った。試合開始時湘南は11人、神奈川は20人余り。いつも神奈川は11人も揃わずで試合をやっているのに、湘南戦に限っては目の敵にしているのか人数を揃えてくる。特にこの日は今まで見た事も無い大人数、しかも50才になったばかりの人もいる。神奈川の選手は大学時代関東の1部でやってたとか社会人でも活躍していたのが多数いる。試合が始まる前から結果が見えていたが、ぶざまな試合だけはしたくないという思いで試合にのぞんだ。

立ち上がり猛攻を受けたがそれをふせいでいるうちに、中盤でのマークがしっかりとできる様になってバックもパスのコースを読める様になった。試合内容は相手に一方的に攻め込まれていたが逆襲で両ウイングの槍が活躍し先取点をとり又加点していった。神奈川も選手全員を出場させる為に、ベストメンバーで最後まで戦うというわけにもいかず、まとまりに欠けていた面はあった。しかし勝負には勝った。

中盤でのマークがしっかりと出来、バックはパスのコースをうまいこと読んで相手を網に掛け、逆襲速攻で点を取り勝つ。弱いチームが強いチームに勝つというサッカーの醍醐味を味わった試合であった。

・対綾瀬戦は3/29昨年の残り試合で2・0で勝っているの、楽勝かと思いきや前の試合とはメンバーが大分変わ

て若返っていたため、苦戦を強いられた。

3 第15回群市四十雀リーグ（現在5勝1分3負）

4/5	湘南	1..3	座間
4/26	湘南	2..0	県庁
5/10	湘南	1..1	早園
6/28	湘南	2..3	中沢
7/5	湘南	4..2	南足柄
9/20	湘南	1..0	川崎
10/11	湘南	3..0	神奈川
11/1	湘南	5..2	赤羽根
10/11	湘南	0..3	浅野

湘南・・・パフォーマンス

・リーグ前半4試合については、湘南は昨年と同じパターンで40才代を相手とした場合走り負けたり（湘南は相手に攻められるとバックはズルズルと下がるくせがある。そのため相手に中盤を取られ、益々スピードにのられる）後半スタミナ切れをおこしたりして負けたりした。

・湘南は平均年齢が高く相手チームと比べると年齢は一回り違う。四十雀でやっていくのはちよつと無理？

・でも今年50才代の若手？が入ってくれた。前半戦は馴染めなくてうまく機能しなかったが、中盤戦位からポジションもさだまりチームの核となり大いに活躍しただした。

・得点力不足のフォワードも藤田氏の加入により活気づき、得点力がUPした。

・その結果中盤戦以降破竹の4連勝を達成した。

・残り2試合に勝てば2位が確定し、来

年は2部昇格だ！！

・対浅野戦は大事な試合だ。ところが試合開始時相手は9人（高速道路事故の為10分程遅れた）これはいけると想う間も無く、試合が始まると相手はスピードのりワンタッチ パスで攻めてきて、マークはバラバラとなり15分位で3点失った。気の緩みにつけこまれた？いや！相手のスピードと技術が今まで戦った相手と格段に違っていた。その後は相手にも慣れ、きちつとマークもでき失点を許さなかった。しかし相手のバックも強く、得点できなかった。

・他力本願だが、2位の線はまだ残っている。！！！！

4	第3回FUSサッカー交流会		
11/23	湘南50	4..1	浦和50
	湘南50	1..1	付属50
11/23	湘南60	4..2	浦和60
	湘南60	1..0	付属60

・湘南・・・1位 付属・・・2位 浦和・・・3位

・今年には付属が50才代の若手が多数参加し、健闘した。

・『心地よい疲労が何とも言えない』いつまでもサッカーを続けたい……………

98年湘南ペガサス活動報告

48回 関 佳史

湘南ペガサスは、現在41名の登録メンバーがおり、うち湘南高校サッカー部OBは、ほぼ半数の19名。今年、監督をつとめていただいた田部井さん（42回）、小川さん（42回）ら5人がシニア入りし、是村君（49回）、沢田君、土屋君（50回）、大木君、五代君、高橋君（51回）、八木君（52回）のほか11名が新規で加入しました。

さて、今年のリーグ戦ですが、非常に厳しい戦いを強いられました。わがチームのメンバーは、ほとんど全員がサッカー経験者であるとはいえ、トレーニングを続けていたのは、大学まで。20代後半から30代にかけて、サッカー中心の生活をしてきた人はいません。ところが、最近の対戦相手には社会人で30代までやっていた選手が何人もいます。こうした相手のスピードとスタミナにはさすがについていけず、もちろん技術面でも当方が劣っています。

という状況の中で、今期のリーグ戦の成績は、1勝11敗。この結果、来期は2部に落ちる事が決定的となりました。試合としては、1点差負けの試合が5試合あり、もう少し得点力があればという試合が多数ありました。しかし、ディフェ

ンスは、大きく崩れることがなく、粘り強い試合運びをしています。サッカーをエンジョイすることを目標に来期も頑張っていきたいと思います。



98年クラブ活動

71回 歌野 寧

「湘南クラブ」は平成6～8年に高校を卒業したOBで構成され、皆一度はサッカー部に所属した経験をお持ちです。元を正せば、このチームは平成3～5年に卒業された先輩方が創られたチームで、それを昨年の3月から平成6～8年卒組が引き継ぎ、活動を続けています。

現在、藤沢市の社会人リーグに登録し、リーグ戦、トーナメント戦など2～3試合を行っています。登録者は平成8年卒を中心に30名ほどいて、試合には毎回15名ほどが集まり、「最大の楽しみは勝つこと」をモットーに頑張っています。

今後も藤沢市を中心に活動しますので、機会がありましたらお立ち寄り下さい。

チームの主な戦績
・日9年度市リーグ3部 2位(5勝1敗)
・日10年度市リーグ2部 3位(4勝3分)

市民総体 優勝
市民総体 準優勝

「ワールドカップ・雑感」

鈴木 中

6月14日(日)トウルーズでの対アルゼンチン戦は日本のサッカー史100年の中で初めて歌う「君が代」が感動的であった。涙したのは私だけでは無かったと思う。日本サッカー協会の関係者・我々の仲間の先生やサッカー人・多くの人達が涙して歌った。

この感動は日本サッカー界の大きな歴史の1ページとなった。

0-1の敗北は良くやったと言う人もいるが、私は世界は遙に遠い道のりだと感じた。個人の身体能力・戦術・技術・どれを取ってもそれはそれは世界との差は大きい、もっともっと基本技術の指導を真剣に取り組まなくては駄目だろう。

まず中学校年代迄に「蹴ること」「止めること」を正しく出来るようになることが最大の課題だと強く感じて帰ってきた。

どうすれば「シユートの出来る選手を育てられるのか」「速さに対応出来る選手を育てられるのか」今まで言われてきた事が「本番で通用しなかった」この現実をどう捕えるかだろう。12・13歳迄に「正しい技術」を習得する事が一番の近道だと思う。

6/15(月)～22(月)の1週間はケニヤ「ナイロビ」で私が仲人をした坂部治郎(44回生)尚子(50回生)ご夫妻には全てお任せの生活で「アンボセリ・サファリ」「エレメンタイ湖」「市内観光」「ゴルフ」「農園見学」「日本人学校」・全く無駄のないアフリカ生活を送る事が出来本当に感謝感激であった。そして又パリに舞い戻り・

6/24(水)～28(日)5ゲームを観戦して、これぞ正しくワールドカップ(ランス)(リヨン)(パリ)(サンドニ)本場に堪能出来た。会場・雰囲気・観衆・役員・鉄道・地下鉄・そしてゲーム内容。フランスの「お国柄」があちこちで見られ、本当に「スマート」で「らしさ」がある。長い歴史を背景に作られたものだろう。

湘南高校の「嘱託指導員」も終わり、皆様方から頂戴した「饞別」を活かして、今回の「ワールドカップ観戦」に使わせて戴いたことを報告しお礼に代えさせて

戴きます。尚ご一緒した平野先生(小田原高校OB)との旅行記はいずれまた別の機会に発表したいと思います。旅行中多くの湘南サッカーOB諸氏と出会いました。紙面の関係で詳細に発表出来ませんが、名前だけ上げさせて戴きます。山口晴夫(45回)岡部昌史(45回)松元隆二(46回)宮井真澄(52回)森正俊(54回)坂部治郎(44回)会えなかったがマスコミ関係で仕事していた湯浅健二(46回)滝本茂(40回)・色々お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。特に海外で活躍されているOB諸氏のみますの活躍をお祈りしたいと思います。

近況報告

54回 藤塚 久雄

10年ひと昔。あつという間に選手権大会出場から10年が経った。また、正月が来て、高校サッカーの話題がマスコミに流れる。誰しも、高校時代にボールを追った日々を想い出す年の初め、皆さんのようにお過ごしですか。

私ことながら、去る3月に鳴門教育大学大学院での内地留学を何とか修了し、

4月より県立綾瀬西高等学校に勤務して
います。

綾瀬西高校は、アイドル歌手の「鈴木
あみ」さんが1年間在籍していた事で少
し有名。文化祭直前に、窓ガラスが97枚
割られたなんぞという中学っぽい事件が
新聞報道されたこともある。この件で警
備のため急遽宿直することになったりも
した。

まあ何よりもサッカー部顧問の前任者
が樺沢氏であることが湘南との接点であ
ると思う。樺沢氏は、湘南定時制より綾
西に転勤し、98年4月私と入れ替えて、
県立旭へ転出していった。彼は、83年の
関東大会出場に当って、コーチとして湘
南サッカーに貢献してくれている。59回
生あたりはこの別名「おおの くにお」
氏におおいに世話になっているのではな
いだろうか。96年には綾西をインターハ
イ出場に導き、神奈川県少年選抜の監
督を務めるなど、サッカー界の超有名人
である。

内示を受けたときは、「マイッタな」
と正直思った。神奈川県に帰ったらサッカ
ー界とは距離を置いて無名のチームでの
んびりとサッカーを楽しみつつ指導し
て、穏やかな教員生活を送りたいとい
うもくろみは見透かされていたのだから
か。内地留学者は、帰任校に文句を言え
ないと、校長に五寸釘を打たれ着任に至
る。着任式の日には、机上にサッカー専
門部の委嘱状がすでに届いていた。

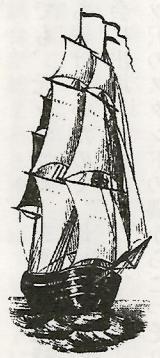
勤務校は厚木基地の南西、綾瀬市と海

老名市の境に位置し、交通は至極不便。
毎朝50分のロングドライブを満喫してい
る。空には軍用機の爆音、地上には暴走
族のプロロンロンという騒音がこだま
し、隠れ里のような景色に似つかわしく
ない教育環境に置かれている。生徒はそ
こそこの悪さをするが、至って純朴な感
じ。皆が声を出して挨拶ができるところ
など感心してしまう。

今のところストレスはあまり感じてい
ない。鳴門の恩師が贈ってくれた西洋の
名言の魔力によるものと感謝している。
鳴門の2年間は実に有意義であった。暇
な時にも訳してみよう。"Maturity
is the ability to live with ambiguity"

こ時世でしようか、授業料の関係から
か私学から公立校への編入希望者が増え
ている。きっと、湘南にもKOなどに流
れていた優秀な生徒が回帰して来ること
でしょう。まずはめでたい。・・・なん
てことはどうでもよいことですが、教員
も賃金がカットされる程の不況にOB会
費が福沢諭吉氏1枚のままというのはチ
ト考え物ではないだろうか。はっきり言
うと、キツイ。かつてのレートに戻すこ
とが会員の（少なくとも私の）幸福な生
活の為になると思うのですが。どうでし
ようかね。

さて、本年も現役諸君の活躍を期待し、
応援を惜しまないことを年頭に誓って近
況報告を終わりとします。駄文にて失礼。



チームドクター

43回 加納 正道

平成10年正月2日、実に32年ぶりに全
国高校サッカー選手権大会のグラウンドに
立ちました。昭和40年 湘南高校1年生
の時、第44回大会の西京極競技場におい
て試合に出て以来です。と言っても今回
はチームドクターとしてですが。。

私はその後医師となり、暫くは東北地方
で働いてきましたが、平成4年に地元
に戻り、茅ヶ崎市立病院で外科医として働
きながら、四十雀でサッカーを楽しんで
きました。そのうちに中さんや、中学時
代の監督であった平野先生に頼まれてド
クターとして選手権のお手伝いをするよ
うになりました。そして数年前選手権の
会場で松浪中学の後輩の小柴君に会いま
した。小柴君は県鎌から早稲田、日立と
進み、日本代表にも選ばれた名選手です。
日立を辞めて高校の先生をしていること
は、聞いていましたが、指導者としては
まだ名前を聞いたことはありませんでし
た。「おまえどこの高校でサッカーを教

えてるんだ」「逗葉高校です」「その高校
は何処にあるんだ」・・・などの話の中で、
「加納さん、うちの高校が選手権に出た
ら、チームドクターをしてくださいよ」と
頼まれました。当然「ああいいよ」と
答えました。しかし選手としての実績の
ある、小柴君のことだから、そのうち県
で上位を狙えるような高校になるかも知
れないとは思っていましたが、無名の県
立高校なので選手権に出ることはない
と思っていました。

それが昨年の選手権の予選で勝ち上
り、たいしたもんだと思っっているうちに、
決勝も勝ってしまいました。早速小柴君
に「おめでとう」と電話したところ、嬉
しそうな声で「加納さん チームドク
ターやってくれますよね、金は出せないけ
れど、知味齋のラーメンおごりますか
ら」と約束を覚えていて真っ先に言っ
てきました。私ももちろん喜んで「いいと
も」と答えました。

いよいよ正月2日 初戦ですが2回戦
の関大一高戦です。三ツ沢の控え室に行
くと意外にも選手達は緊張もせずなごや
かでした、そのなかで一人中心選手のS
だけは、しょんぼりしていました。先日
の練習後に遊んでいて足を捻挫したから
です。あらかじめ知らされていた私です
が、本人が痛み止めの注射を打ってでも
出たいと、言うのを私は無理はするなと
論じました。そして監督との話でとにか
く先発からははずし試合の経過を見なが
ら出場させるかどうか、決めることにな

りました。そこで痛み止めの飲み薬を試合中に効いてくるように試合前に飲みました。

ここで思い出したのは、32年前の選手権でした。試合前日京大のグラウンドで練習が終わった後、同級生の猿渡君が練習後に、同級生と遊んでいて捻挫し、試合に出られなくなった事でした。歴史は繰り返すと言いますが、同じ事が繰り返されてしまったのです。Sは2回戦、3回戦は後半途中から、4回戦は先発で途中まで試合に出ましたが、もちろん充分な活躍は出来ませんでした。大切な試合前は特に怪我に注意する必要性を強く感じました。

また試合前控え室にいと、小柴監督の人脈の広さを物語るように、次々とサッカー関係者が、お祝いと、激励にやってきました。そのなかにユースの清雲監督がいました。実は私は25年前前大選手権に東北地区代表の東北大学のキャプテンとして出場し、法政大学のキャプテンだった清雲とここ三ツ沢で試合しました。5-1で負けはしましたが、清雲がマークしていた私が1点取ったのです。私にとってはサッカー人生の中で最も記憶に残る得点だったのですが、清雲監督にその話をして、当然ですが覚えておらず「あっそうですか、1点取られたのですか。」とそっけない返事でした。試合前、救急箱をカバンに入れベンチに入りました。監督の隣にコーチが座り、その横に座り試合を観戦しました。試合

はいい時間帯に得点を重ね3-0で快勝でした。勝った瞬間がとちりと小柴監督と握手をしました。1回でも勝てれば満足と思っていたのに3回戦で秋田商にまたまた勝ってしまいました。公立高校なのでサッカー部に入る選手に実績のある生徒はいないのに、全国ベスト8まで行ってしまいました。

ベスト8の相手はご存じ3冠を達成した東福岡。5日の月曜日は仕事始めでしたが、「まさか」の場合に備えて、手術の予定を組まずにおいたので、朝病院に顔を出し、入院患者の回診と指示出しをして、市長、院長の年頭の挨拶は、遠慮させていただき、大宮に直行しました。セルジオ越後からのアドバイスも監督の携帯に入っていました。試合が始まると、古賀大三に左サイドを破られピンチが続きます。苧葉左サイドバックの「しま」は顔がひきつっています。ベンチの目の前なので監督が力を抜くよう指示を出します。しかしワンパターンの突破なので

どうにか前半をしのぎ、0点に押さえました。ハーフタイムの指示で、小柴監督がしつかりと、マークする相手とゴールとの間に入れと行っていました。昔我々が言われたことと同じです。時代が変わり、システムはいろいろ変わっても、基本は同じだと再認識しました。ひょっとしたらと思えば迎えました。実力の差は明らかです。こてんぱんにやられました。国立に行けず残念ではありましたが、3試合もチームに帯同してベンチから試

合が見れたし、テレビにもちらっと映たし、また大会中色々な人に会って話が出来て楽しい正月でした。

今年はずでに予選で負けてしまいました。また苧葉高校のチームドクターとしていや次は湘南高校のチームドクターとして選手権のベンチに座りたいと思います。



「永遠のテーマ・40代サッカーの在るべき姿は？」

「時之栖」の夜

51回 石郷岡 善則

私は、現役時代、決して優秀な部員ではありませんでした。3年間部活動が続けましたが、ずっとフォワードの補欠。公式戦出場は通算15分(得点1)。高校卒業後はサッカーから全く遠ざかっていました。

それでも、元々サッカーを愛する気持ちは持ち続けていたので、母校が正月の全国大会に出場したゲーム(1989年)を、三ツ沢のスタンドの隅からこっそり

見た時(恥ずかしくてOB席になんか入れなかった)猛烈に血が騒ぎだし、仕事で付き合ひのあった広告会社のチームに入れてもらい、卒業以来16年ぶりで、最初はおつかなびつくり、雑誌広告リーグというリーグ戦に出るようになったのが、オッサン草サッカーとの再会でした。

その時の対戦チームに関先輩(48回生)がいて、その紹介で、渡辺象次先輩が監督をしていた、茅ヶ崎オールドリ(36歳以上)の「浜須賀オールド」というチームにも入れていただきました。このリーグは、茅ヶ崎各地の小学校チームの父兄が、その地区単位で作ってきたチームばかりで、「浜須賀オールド」はサッカー未経験者がたくさんいらして、当時下位に低迷していました。何の地縁・血縁のない私を温かく迎えてくれ、成績はあまり良くないけれど、なかなかアットホームな良いチームです。渡辺監督の下、ディフェンダーとして再生した、(あまり長い距離は走れなかった)私は、行ける限り、試合、忘年会等に出席し、新しい友人もでき、サッカーが人生の中心になりました。このチームでも、一時、勝負にこだわらるか、来た人全員を平等に出場させるかという問題を巡って激論が沸き起こった事がありました。誰だってグラウンドに立ちたいし、(自分も若い時はそうだった)、一方では試合である以上勝ちたいという気持ちもあり、(自分がスイーパーのときはみんなにしつかりディフェンスしてほしい)、

これはオッサン草サッカーの永遠のテーマだと思えます。「浜須賀オールド」は現在全員参加方式を取り1勝1分6敗ベイスのチームとして、みんな、サッカーを楽しんでいます。

そしてついに、昨年、オッサン草サッカーの頂点「湘南ペガサス」に入れていただきました。ここでも、浅倉監督はじめ皆さんの配慮で楽しませていただいています。自分が戦力的には全く役に立たず、迷惑をかけていることは、かなり自覚しています。残念ながら、来年は2部陥落となり、先日、御殿場・時之栖で行われたシニア大会の夜、宴会では例の「テーマ」が結構話題になっていました。二次会で同室の五代君や先輩たちとも、引き続きこのテーマを肴に遅くまで

おおいに盛り上がり、ある先輩はトイレに駆け込み吐きまくっていました。自分も酔っていて良く覚えていませんが、オッサン草サッカーに対する考え方は、人それぞれみな違うんだということがわかりました。だからこのテーマに正解や結論はなく、その時のメンバーがよく話し合い理解しあえればいいんだと、誰かに言っていた気がします。

私は、これからも、サッカーが上手くなりたいし、宴会を中心に(?)身体が続く限り、参加したいと思っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

関西発!

67回 佐藤 浩一郎

関西の地に足を踏み入れて早くも1年9カ月が過ぎようとしています。鎌倉で育ち、すっかりと鎌倉、湘南の生活に慣れ親しんでいた、自分がまさか関西の地で生活するとは誰が想像したでしょうか?(恐らく誰も想像していないと思いますが...)そんな湘南BOYなんて悪びれもなく口から発していた頃も今は昔、今ではすっかりと関西の地に毛根をはやし栄養補給をして毎日を恙無く過ごしております。

現在、私は湘南高校64回生を中心としたトトカルチョに所属させて頂いております。トトカルチョの試合自体はリーグ戦を中心に行われているのですが、私は、恋愛が距離に負けることがあると同様に、トトカルチョへの情熱も距離に負けることがしばしば...そんな理由もあり、年間を通して常時参戦できない状態があります。しかしながら、ここぞ!という試合には、「いざ、湘南!」とやはり歴史の都に育った甲斐もあり、妙な忠誠心のもと馳せ参じるのでした。チームで2番目に年下ということもあり、先輩方から受ける期待は絶大なものです。その期待を一身に受け、裏切り、「役立たず!」と言われ帰阪することもしばしば...会社の人達も、サッカーの試合の為に

帰郷する自分を摩訶不思議に思っているようですが、それだけ私自身の中に同じ高校でPLAYした輩と今でも一つの目標に向かつて力を合わせる事が出来ることに、深い喜びと至福を感じている証だと考えています。若い、強いと言われたトトカルチョも、今や平均年齢が20代後半となり、「功、走、守」も「口、操、手」と毛色の違ったものになることも否めない状況下、誰もが決してノスタルジーに侵されることなく、もっとサッカーを上手くなるう、もとイカスGAMEをしようとな前向きに突き進んでいる。恐らくこれがトトカルチョ、もっと言えば湘南サッカーの良さなのでしょう。

世代を問わず、フィールドに立てば皆がサッカーボールで自分の理想郷を築こうと自己主張を始める。そこには微塵の妥協も無く、99%のLIKEと1%のINTELLIGENCEのみが存在する。こんな湘南BOYS達と一生共にPLAY出来ること程すばらしいことはないのでは?と関西より感じ始める今日この頃でした。

現役便り

サッカー部部长2年 友松 亮

勝つこと、勝ち続けること。これが目標である。勝つために存在するのが「湘南」というチームであると、先生方や先

輩方に教えられ、今、それを強く感じている。

どのチームよりも勝つことに貪欲であり、拘りたいと思う。うまくなくても、美しいサッカーではなくても、下手だと思われてもいいから、自分達のサッカーを貫き、最後まで走り、決してあきらめず、そして勝つ。そんなチームになればいいと思う。

勝つことによって得ることが出来るもの、それは勝たなければ得ることはできない。この勝つことによって得られるものをチームの自信とし、財産として積み上げていきたい。そうすることができれば、二〇〇〇年の一月に全国という舞台でサッカーを楽しんでいる自分達がいるはずである。必ずそうしてみせる...

二〇〇一年の試合結果

〈1998年〉

新人大会1回戦	湘南	1-0	向上
" 2回戦	湘南	1-1	測野辺 (PK)
関東大会予選1回戦	湘南	0-1	川和 延長
高校総体予選1回戦	湘南	4-0	藤沢北
" 2回戦	湘南	0-4	金井
選手権1次予選1回戦	湘南	5-0	大和東
" 2回戦	湘南	1-3	向上
新人大会地区予選(リーグ戦)	湘南	0-0	藤沢北 (PK)



11年度会費納入の件

10年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、左記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金
 口座番号 019166
 湘南高校サッカー部OB会
 武藤俊一 電話

0466(34)9329

湘南	2-0	鎌倉
湘南	1-0	藤沢西
湘南	10-0	藤沢工業
新人大会地区大会(トーナメント)		
湘南	2-0	栄光
湘南	2-0	大清水
湘南	0-0	湘南工科(PK)
湘南	4-1	湘南台(延長)
湘南	0-0	日大藤沢(PK)

～蹴球祭・総会のご案内～

日時/1月15日(祝) 11:00～ 場所/湘南高校

当日午前中は新人戦県大会会場になっています。湘南は1月10日(日)の試合 [9:30 KO 対大船校 於:湘南高校] に勝てば15日9:30より試合が組まれます。OBのスケジュールは以下の予定で考えておりますが、よろしければ応援も。皆様のご参加をお願いいたします。

(グラウンド)

9:30~14:00 新人戦県大会 14:10~16:30 Aコート(スタンド側) 40代~OB戦 (原則として年長の方から)
 Bコート 30代までOB戦 (参加者で適宜相談の上)

(セミナーハウス)

11:30~11:40 総会 12:00~13:30 昼食を兼ね現役も含め交流会 13:30~16:40 更衣・休憩・歓談
 16:40~18:00 OB反省会・懇親会

特別会計報告

収入(故天野全会長ご遺族より)	100,000
支出(コンテナ寄付費用として)	
平成10年度会計へ	100,000

<平成11年度予算案>

収入	
150名(社会人130名、学生20名)	
130×10,000+20×5,000=	1,400,000
繰り越し金	60
計	1,400,060

支出	
現役寄付、合宿遠征補助	500,000
指導者支援金	130,000
印刷費	250,000
通信・事務費	150,000
蹴球祭・夏合宿	200,000
付属定期戦補助	40,000
雑費	30,000
予備費	100,060
計	1,400,060

<平成10年度会計報告>

収入	
会費・寄付	1,390,000
特別会計から	100,000
繰り越し	12,812
利子	218
計	1,503,030

支出	
現役寄付	200,000
コンテナ寄付	130,000
コンテナ送料	70,000
指導者支援金	170,000
遠征補助(OB)	100,000
OBコーチ講習会等	33,510
蹴球祭	237,973
岡野会長車代	100,000
夏合宿懇親会	42,500
筑波大付属戦補助	30,000
通信・事務費	142,987
印刷費	231,000
OB会備品(郵便番号ソフト)	10,000
慶弔費	5,000
記帳残	60
計	1,503,030